

【警告】

- ・薬液の種類、用量、用法については、必ず医師の指導に従うこと。[症状が悪化するおそれがある。]
- ・本品は一人のみに使用し、複数の人と共用しないこと。[感染のおそれがある。]

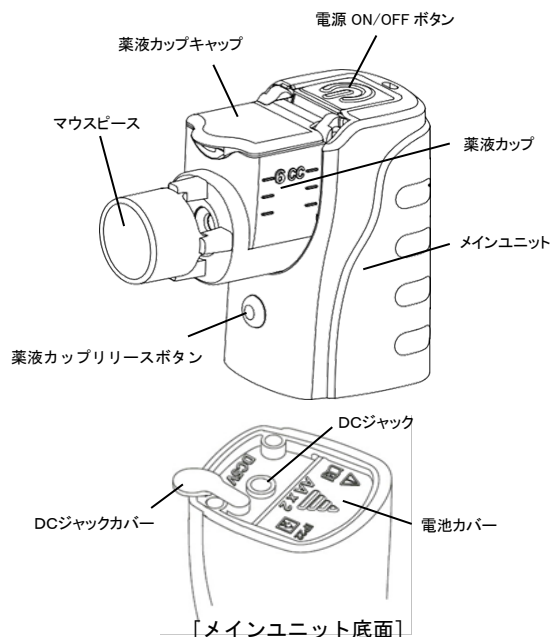
【禁忌・禁止】

- ・加湿を目的とした水のみ吸入は行わないこと。[気管支痙攣又は過換気を起こすことがある。加湿には生理食塩水を使用すること。]
- ・自動呼吸装置に本品を接続しないこと。[本品は、呼吸装置（人工呼吸器、麻酔器を含む）への接続を意図していない。]

【形状・構造及び原理等】

※1. 構成及び主要部の名称

本品はメインユニット及び薬液カップより構成される。
薬液カップはメインユニットに着脱可能である。
付属品：吸入マスク、単3形アルカリ乾電池（2本）、
USBケーブル（オプション）



※2. 原材料

- ・薬液カップ：ポリカーボネート
- ・マウスピース：ポリカーボネート
- ・吸入マスク：ポリ塩化ビニル

3. 本体寸法及び質量

メインユニットに薬液カップを装着した状態で示す。
・寸法：約41 mm (W)×約78 mm (D)×約73 mm (H)
・質量：約74g(電池含まず)

4. 機器の分類

- ※・電撃に対する保護の形式：内部電源機器（電池使用時）
クラスⅡ機器（USBケーブル使用時）
- ・電撃に対する保護の程度：BF形機器
- ・水の有害な浸入に対する保護の程度：IP22

5. 電氣的定格

- ・電源：単3形アルカリ乾電池2本（DC3V）
単3形ニッケル水素電池2本（DC2.43V）
AC100V、50/60Hz（USBケーブル使用、出力DC5V、1～2A）

- ・消費電力：最大1.5W
- ・電池寿命：アルカリ乾電池の場合、連続使用で最長90分、あるいは、1日に20分使用して4日間

6. 性能

- ・超音波発振周波数：約 117kHz
- ・噴霧能力：0.25mL/min 以上
- ・噴霧粒子径：MMAD 5μm 未満
- ・薬液カップ容量：最大 6mL

7. 原理

メインユニット内の発振回路が高周波電流を発生し、薬液カップ側面にあるメッシュネブライザモジュールの超音波振動子及びそれと一体となったメッシュを機械的に振動させる。この機械的振動により、薬液の微粒子エアロゾルミストが分散する。

【使用目的又は効果】

本品は、患者に吸入させるため、エアロゾル化した薬液を供給する装置である。

【使用方法等】

* I. 電池を使用する場合

- (1) メインユニット底面の電池カバーをスライドさせて開け、表示された極性のとおり電池（単3形アルカリ乾電池又は単3形ニッケル水素電池）を2本挿入し、電池カバーを閉める（図1）。

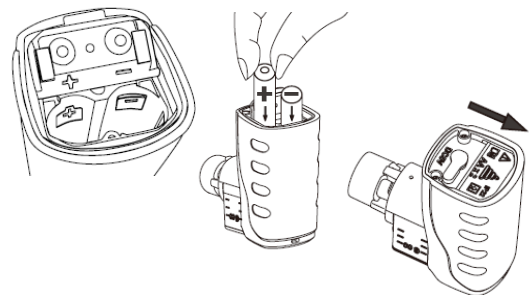


図1

- (2) メインユニットに薬液カップを装着する。ロック部がメインユニット内に収まるように、まっすぐに下方へスライドさせる（図2）。

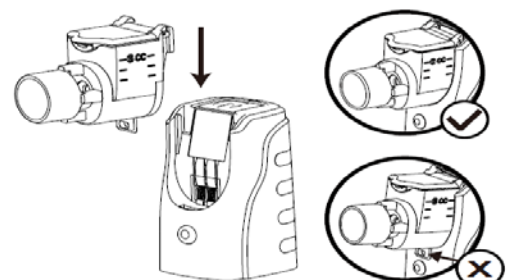


図2

- (3) 薬液カップに薬液を注入し、キャップを確実に閉める（図3）。
- (4) 吸入マスクを使用する場合は、マウスピースに装着する。

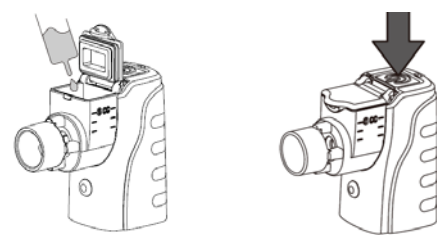


図3

図4

- (5) 電源ON/OFFボタンを押し、噴霧を開始する（図4）。
噴霧中は薬液カップリリースボタンが緑色に点灯する。

- (6) マウスピースを唇でシールするようにくわえるか、あるいは、吸入マスクを鼻と口にかぶせ、吸入する（図5）。



図5

- (7) 所定時間又は所定量の吸入が終わったら、電源ON/OFFボタンを押し、噴霧を停止する（図4）

** (8) 吸入マスクを使用した場合は取り外し、[吸入マスクの洗浄方法]の手順にて洗浄を行う。

**** II. USBケーブルを使用する場合.**

- (1) メインユニットに薬液カップを装着する。ロック部がメインユニット内に収まるようにガイドに合わせ、まっすぐにスライドさせる（図2）。
- (2) 薬液カップに薬液を注入し、キャップを確実に閉める（図3）
- (3) メインユニットのDCジャックにUSBケーブルのDCプラグを挿入し、USBプラグを充電器やPC等のUSBジャックに差し込む。（図6）。

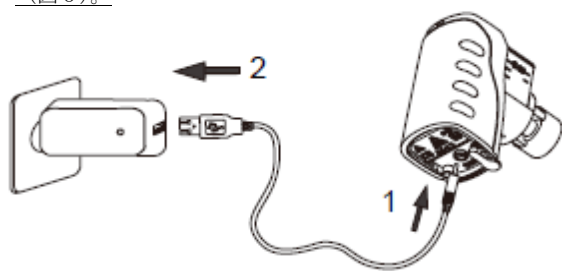


図6

- (4) 吸入マスクを使用する場合は、マウスピースに装着する。
- (5) 電源ON/OFFボタンを押し、噴霧を開始する（図4）。噴霧中は薬液カップリリースボタンが緑色に点灯する。
- (6) マウスピースを唇でシールするようにくわえるか、あるいは、吸入マスクを鼻と口にかぶせ、吸入する（図5）。
- (7) 所定時間又は所定量の吸入が終わったら、電源ON/OFFボタンを押し、噴霧を停止する（図4）。
- (8) 吸入マスクを使用した場合は取り外し、[吸入マスクの洗浄方法]の手順にて洗浄を行う。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- ・薬液カップに注入できる量は6mLまでである。
- ・噴霧終盤で本品を傾けるとメッシュに薬液が触れるので、残った薬液を完全に噴霧することができる。
- ・高粘度の薬液を使用した場合は、通常と同様の噴霧が行われないうちがある。
- ・メッシュに薬液が過剰に蓄積された場合には、噴霧が停止することがある。[電源を切り、メッシュに付いた薬液をガーゼやタオルに吸収させる。]

【使用上の注意】

- **・USBケーブルは、当社指定のものを使用すること。[正しく稼動しないことがある。]
- ・薬液カップに薬液を残したまま放置したり、持ち歩いたりしないこと。
- **・吸入マスクを再使用する場合は、複数の人と共用しないことを条件とする。（一人のみに使用とする）
- ・使用前、使用后、及び長期間保管した場合は、全ての部分を清潔にすること。
- ・子供や何らかの介助を必要とする人が使用する場合は、大人が補助すること。
- ・メッシュに汚れが付着した場合は、布やブラシ等でこすり取らないこと。[メッシュが破損するおそれがある。]
- **・メインユニット及びUSBケーブルに液体を落下させないこと。[落とした場合は、すぐに拭き取ること。]
- ・電池は2本とも同じものを使用し、種類や容量の異なるものを混ぜて使用しないこと。
- ・薬液カップリリースボタンが橙色に点灯する場合は、電池残量が低下しているので、新しい電池に交換すること。
- ・薬液カップリリースボタンが橙色に点滅したり、電源ON/OFF

ボタンを押しても点灯しない場合は、不具合の発生又は電池の残量が無いことを示す。

- ・長期間使用しない場合は、電池を抜いておくこと。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

直射日光を避け、次の条件に保管する。

温度：-20～+70℃

湿度：20～75% RH

2. 耐用期間

常温（23℃）で1日3回各20分、生理食塩水を噴霧した場合の目安は次のとおりである。

メインユニット：2年

薬液カップ：1年

【保守・点検に係る事項】

**** 1. 薬液カップの洗浄方法**

吸入の終了後、引き続き薬液カップの洗浄を行う。

- (1) 薬液カップに残った薬液を捨てる。
- (2) 薬液カップに少量の蒸留水を入れる。
- (3) 電源ON/OFFボタンを押し、1～2分間噴霧してメッシュを洗浄する。
- (4) 電源ON/OFFボタンを押し、噴霧を停止し、電池を抜くか、あるいは、USBケーブルを取り外す。
- (5) 薬液カップをメインユニットから取り外す。
- (6) 薬液カップを蒸留水で水洗いする。
- (7) 水分を振り落とした後、乾いた清潔なタオルの上で十分に自然乾燥させる。
- (8) メインユニットが汚れている場合は、清潔なガーゼ又はタオルで拭き取る。
- (9) 汚れが無く完全に乾いたことを確認した後、収納ケースに保管する。

**** 2. 吸入マスクの洗浄方法**

吸入の終了後に引き続き吸入マスクの洗浄を行う。

- (1) 中性洗剤を使用し、マスクを約30℃の温水で少なくとも30秒間軽く手洗を行い、蒸留水でよくすすぐ。
- (2) 水分を振り落とした後、乾いた清潔なタオルの上で直射日光を避けて十分に自然乾燥をさせる。
- (3) 汚れが無く完全に乾いたことを確認した後、収納ケースに保管する。

<洗浄方法等に関連する使用上の注意>

- **・薬液カップ及び吸入マスクの洗浄は、毎使用後に必ず実施すること。
- ・メッシュを指や綿棒その他のもので突つかないこと。
 - ・食器洗機の機械やブラシ等の器具を用いての洗浄はしないこと。
 - ・乾燥は自然乾燥のみとすること。

3. 消毒方法

薬液カップは以下のいずれかの方法により、毎日消毒することが望ましい。

I. 熱湯による方法

- (1) 薬液カップを蒸留水で水洗いする。
- (2) 耐熱容器に蒸留水を適量満たし、沸騰させる。
- (3) 薬液カップを熱湯中に最長10分間浸漬する。
- (4) 薬液カップを取り出し、水分を振り落とす。
- (5) 放冷後、乾いた清潔なタオルの上で自然乾燥させる。
- (6) 汚れが無く、乾燥したことを確認した後、保管又は使用する。

II. アルコールによる方法

- (1) 薬液カップを蒸留水で水洗いする。
- (2) 薬液カップを75%エタノール溶液に1分間浸漬する。
- (3) 薬液カップを蒸留水ですすぎ、水分を振り落とした後、乾いた清潔なタオルの上で自然乾燥させる。
- (4) 汚れが無く、乾燥したことを確認した後、保管又は使用する。

<消毒方法等に関連する使用上の注意>

- ・薬液カップを直火で煮沸しないこと。
- ・メインユニット及びUSBケーブルは、熱湯、アルコールのいずれによっても消毒できない。
- ・メインユニット及びUSBケーブルは、いかなる液体にも浸漬しないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

■製造販売業者

株式会社インターメドジャパン

大阪市中央区道修町1-6-7 TEL:06-6222-1951

■外国製造業者

マイクロベース テクノロジー社

(MicroBase Technology Corp.)

台湾

—製造販売元—



株式会社 インターメド ジャパン